

# 1080. Fréchet 束 = 就テ (II)<sup>(1)</sup>

小笠原 隆次郎 (濱島文理大)

紙数誌 243号 "Fréchet 束 = 就イテ" / 所論ヲ續ケル。

## §6. 条件(N)ヲ満足スルベクトル束

ベクトル束: 各要素 = 高々可附着無限個ノ実数  $\|x\|_p, p=1, 2, 3, \dots$

2, 3, ... が對應シ; 条件(N):

(i)  $\|x+y\|_p \leq \|x\|_p + \|y\|_p, \|\alpha x\|_p = |\alpha| \|x\|_p, p=1, 2, 3, \dots,$

組シムハ実数

(ii)  $|x| \leq |y|$  / トキ  $\|x\|_p \leq \|y\|_p, p=1, 2, 3, \dots$

(iii)  $x_n \downarrow 0$  / トキ  $\lim_n \|x_n\|_p = 0, p=1, 2, 3, \dots$

(iv)  $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n \leq \dots, \lim_n \|x_n\|_p < +\infty,$

$p=1, 2, 3, \dots$  / トキ  $\forall_n x_n$  が存在スルヲ満足スル

トキ, コノベクトル束ヲ 条件(N)ヲ満足スルベクトル束

ト呼ブ。

条件(N)ヲ満足スルベクトル束ノ一ニノ例ヲ舉ゲルト

例1. Bochner 束: §2例1ノ正線形汎函数  $F_p(x)$

カラ  $\|x\|_p = F_p(|x|)$  トスルハ, 上述ノ(i) - (iv) が満足サレ

ル。従ツテ, 条件(N)ヲ満足スルベクトル束ハ条件(L)ヲ満

足スルベクトル束 (即チ Bochner 束ノコト) / 自然ナ拡張

デアル。

例2. K-空間:  $\|x\|_p$  が唯一個カラナルトキハK-空

(1) 小笠原隆次郎, Fréchet 束 = ツイテ, 紙数誌 243号 Fréchet

束 = 就テ (I) トスル。

間 (Kantorovitch空間) = +。従て条件 (N) を満足スルベクトル束ハ  $K$ -空間ト多分 = 性質ヲ共有スルモノト豫想サレル。

例 3.  $m(E)$  を  $[0, 1]$  (abstract set  $\mathcal{A} \in \mathfrak{A}$ ) / Borel 集合族上ノ測度函数,  $m([0, 1]) = 1$  トスル。ソノ絶対値ノ任意ノ幕ト共 = 可積分 + 可測函数ノ全体ヲ考へ,  $\|x\|_p = \left[ \int_0^1 |x(t)|^p dm \right]^{\frac{1}{p}}$ ,  $p = 1, 2, \dots$  ト置クト, 条件 (N) を満足スルベクトル束トナル。

補題 1. 条件 (N) を満足スルベクトル束ハ, 計量函数

$$\rho(x) = \sum_1^{\infty} \frac{1}{2^p} \frac{\|x\|_p}{1 + \|x\|} \quad \text{ト選ガトキ } K_6 \text{ 型 "正則" } F\text{-束} =$$

ナリ,  $\rho$  = ヨル収斂ハ (\*)-収斂ト同義ナアル。  $\rho$  = ヨル位相ヲ変へズニ Banach 空間 (従テ  $K$ -空間) トナル様ノ ノルム が導入出来ル条件ハ,  $\sum_1^{\infty} d_p \|x\|_p < +\infty$  ガスヤテ /  $x =$  對シテ成立ツマシ正数列  $\{d_p\}$  が選ガコトが出来ルコトナル。

(証)  $\rho(x) =$  對シ, §1 / (I) — (VI) / 成立ガ容易ニ判ルカラ, 条件 (N) を満足スルベクトル束ハ  $K_6$  型 "正則"  $F$ -束ナアル。  $\rho =$  ヨル位相ヲ変へズニ,  $\|x\|$  ナル ノルム / 導入ニヨツテ Banach 空間トナルトスルバ,  $\|x\|_p \leq C_p \|x\|$  ナル常数  $C_p$  が存在スルカラ本補題ノ  $\{d_p\}$  / 存在ガ云へル。

逆 = 本補題 /  $\{d_p\}$  が存在スルトキ,  $\|x\| = \sum_1^{\infty} d_p \|x\|_p$  ト置

ケバ  $K$ -空間 = スルコトガ云ヘル。

本補題カラ  $(\delta)$ -空間ノノルムノ導入ニヨツテ Banach  
空間ニスルコトガ出来ナイコトガ判ル。序ニ例ヲニ於テ  
*trivial* ナ場合 (有限個ノ点 = massガ集中シテイルトキ)  
ヲ除イテ, ノルムニヨツテ Banach空間ニスルコトハ出来  
ナイ。(証明ニハ §4, 定理3ヲ使ハバヨイ。同定理ハ筆者  
ノ不注意ニヨリ條件ガ落チテイル。  $K_6$  型 ( $K_6$ 型) "正則"  
 $F$ -束ガ 単位  $e$ ヲ  $\in$  ヲ環束ノトキ ノルム ----- ト讀ンテ載  
キタイ)。

$\|x\|_p$  ハ必要アルトキハ;  $\|x\|_p \leq \|x\|_{p+1}$  ト考ヘテ差  
支ヘナイ。(  $\|x\|_1 + \|x\|_2 + \dots + \|x\|_p$  ヲ  $\|x\|_p$  ト考ヘレバ  
ヨイカラ。)

補題2. 條件 (N)ヲ満足スルベクトル束ニ於テ,  $\|x\|_p$   
 $\leq \|x\|_{p+1}$  ガ成立ツトキ, 線形汎函数  $F(x) = \sum$  キ次ノニツ  
ノ命題ハ同義デアアル。

(1°)  $F(x)$  ハ  $p = \infty$ ニ関シテ (或ハ  $(*)$ -位相ヲ) 連続デアアル。

(2°)  $F(x)$  ハアル  $\|x\|_p = \infty$ ニ関シテ連続デアアル。

(証) (2°)  $\rightarrow$  (1°)ハ殆ンド自明。(1°)-(2°)ノ証。  $p(x) < \infty$

ノトキ  $|F(x)| \leq 1$  トスル。  $p$ ヲ充分大ニトリ,  $\sum_{n>p} \frac{1}{2^n} \frac{\|x\|_n}{1+\|x\|_n}$

$< \frac{\varepsilon}{2}$ ニスル。 マタ  $\|x\|_p < \delta$ ノトキ  $\sum_1^p \frac{1}{2^n} \frac{\|x\|_n}{1+\|x\|_n} < \frac{\varepsilon}{2}$ ニスル

ト,  $\|x\|_p < \delta$ ノトキ  $|F(x)| \leq 1$ トナリ  $F(x)$ ハ  $\|x\|_p = \infty$ ニ関シテ  
連続ニスル。

定理1. 条件 (N)ヲ満足スルベクトル束ハ弱完備<sup>(1)</sup> (定義)

また如何ナル区間を列的弱コンパクトデアルト同時=弱コンパクトデアイル。

(証) 紙数誌240号, "K-空間=ツイテ"ノ定理7.3, 定理7.4ヲ使ツテ証明スル。弱完備性ト区間, 弱コンパクトヲ云フ=ハ,

(\*) 任意ノ正要素  $\alpha > 0$  = 正值ヲ喚ヘル有界線形汎函数 (正線形汎函数ノ差トシテ表ハサレル汎函数ノコト) が存在スル。

( $\alpha$ )  $\alpha \delta \downarrow 0$  ナル directed set = 對シ, スベテノ有界線形汎函数  $F(x) =$  對シ  $F(x\delta) \rightarrow 0$ 。

( $\beta$ )  $E$  7  $x, y \in E$  ノトキ,  $x, y \leq z \in E$  ナル  $z$  ノ存在スル正要素ノ集合トスル。如何ナル正有界線形汎函数  $F(x) =$  對シ  $\epsilon \in \mathbb{R}, \text{p. u. } \mathcal{A}(F(x); x \in E) < +\infty$  ノトキ  $\sup E$  が存在スル。

ヲ証明スレバヨイ。コノウチ (\*), ( $\alpha$ ) ハ自明デアイル。 ( $\beta$ ) = ツイテハ,  $\sup E$  が存在セズトスレバ,  $K_0$  型 "正則", 性質カラ  $x_n \in E, x_n < x_{n+1}$  ナル (0)-有界デナイ  $\{x_n\}$  が存在スル。然ル  $\|x\|_p =$  閉スルスベテノ有界線形正汎函数  $F =$  對シ,  $\lim_n F(x_n) < +\infty$ 。故  $= \lim_n \|x_n\|_p < +\infty, p = 1, 2, 3, \dots$ 。従ツテ條件 (N), (iv) カラ  $\bigvee_n x_n$  が存在シ,  $\{x_n\}$  が (0)-有界デナイトシタコト=矛盾スル。次ニ  $a$  7 任意ノ正要素トシ, 区間  $(x; 0 \leq x \leq a)$  カラノ任意ノ要素列  $\{x_n\}$

---

(i) 有界線形汎函数 (正線形汎函数ノ差トシテ表サレル), Kantorovitchノ正則線形函数ノ意) = 閉シテノ意。以下同様。

ヲ考へル。後ニ証明スル定理 ( § 8. 定理 2 ) ニヨリ、對角線論法ヲ使ツテ  $\{x_n\}$  カラ収斂部分列ヲトリ出スコトが出来ル。

Bochner 束ニ本定理ヲ適用スレバ、次ノ定理ヲ得ル。

定理 2. Bochner 束ハ弱完備デアール。任意ノ區間ハ列的弱コンパクト且弱ビコンパクトデアール。

本 § デハ  $X$  ヲ條件 (N) ヲ満足スルベクトル束トスル。

$X$  ノ有界線形汎函数ノ全体ノ作ル完全ベクトル束ヲ  $\overline{X}$  デ表シ、

$\|x\|_p$  = 同シテ連続ト線形汎函数ノ全体ヲ  $\overline{X}_p$  トスル。

$\overline{X}_p$  ハ周知ノ  $x$  ヲ = Banach 束ト考へラレル。  $\|x\|_p \leq \|x\|_{p+1}$ 、

$p = 1, 2, \dots$  ノトキハ補題 2 ニヨリ  $\overline{X} = \sum \overline{X}_p$ 、 $\overline{X}_p \subset \overline{X}_{p+1}$

ト表サレル。以下  $\|x\|_p \leq \|x\|_{p+1}$ 、 $p = 1, 2, \dots$  トシテ論ズ

ル (之ニテ一般性ハ失ハレナシ)。

定理 3.  $X$  ヲ條件 (N) ヲ満足スルベクトル束トスル。  $\overline{X}$  ハ  $K_6$  型 "正則" ベクトル束ノトキ  $X$  ハ Banach 空間トシテ、正則ト Banach 束デアール。

(証)  $\overline{X}_n = \overline{X}_{n+1} = \dots$  トル  $n$  ノ存在ヲ証明スル。

カ  $n$  存在シナケレバ、正線形汎函数列  $\{F_n\}$  ヲ  $F_n \in$

$\overline{X}_{i_n}$ 、 $F_n \notin \overline{X}_j$  ( $j < i_n$ )  $i_1 < i_2 < \dots$  トル  $x$  ニトルコト

が出来ル。  $\overline{X}$  ノ  $K_6$  型 "正則" 性カテ、 $\sum \alpha_p F_p \in \overline{X}$  トル正数

列  $\{\alpha_p\}$  が存在スル。

然ルニ、明ラカニ、 $\sum \alpha_p F_p \in \overline{X}_n + \overline{X}_n$  が存在シナ

シ。  $\overline{X}_n = \overline{X}_{n+1} = \dots$  トスレバ、 $p \geq n$  ニ對シテハ  $\|x\|_p$

= 0 ト  $x = 0$  ハ同義デアール。  $\overline{X}_n = \overline{X}_{n+1}$  カテ  $\overline{X}_n$  ト  $\overline{X}_{n+1}$

$X$  は Banach 空間トシテ Banach, 意味ノ同型トナル  
 カラ<sup>(1)</sup>,  $\frac{1}{m} \|x_{n+1}\| \leq \|x\|_n \leq \|x\|_{n+1}$  トル  $m$  が存在スル。  
 $\|x\|_{n+2}, \dots$  = 対シテモ同様.  $X$  ハ  $\|x\|_n = 0$  ルベクトル  
 束ト考ヘラレルカラ,  $X$  ハ  $K$ -空間デアアル.  $\bar{X}$  ノ  $K$  型 "正  
 則" 性カラ  $X$  ハ Banach 空間トシテ 正則ト Banach 束  
 トル. (紙数誌 240号 前掲定理 4.1 参照)

コレカラ 容易ニ次ノ定理ヲ得ル。

定理 4.  $X$  ヲ Bochner 束トスル.  $\bar{X}$  ガ  $K$  型 "正則" ベ  
 クトル束ノトキ  $X$  ハ 有限次元デアアル。

定理 5.  $X$  ヲ 条件 (N) ヲ 満足スルベクトル束トスル.  $\bar{X}_p$   
 ガ  $p = 1, 2, \dots$   $K$  型 "正則" ノトキ ( $\bar{X}_p$  ガ  $K$ -空間ト  
 イフコト = 同義. マタ  $\|x\|_p \leq \|x\|_{p+1}$ ,  $x$  ノ 有限個,  $\bar{X}_p =$  對  
 シ例外ハアツテモヨイ),  $X = \bar{X}$  トナル。

(註)  $\|x\|_p \leq \|x\|_{p+1}$  トシテ 論ズ。

定理 1 ノ 証明カラ  $X$  ハ 条件  $(*)$ ,  $(\alpha)$ ,  $(\beta)$  ヲ 満足スル。  
 $\bar{X}$  ガ  $(\alpha)$  ヲ 満足スルコトヲ 云ヘバヨイ. (紙数誌 240号,  
 前掲, 定理 7.2)  $\{F_\beta\}$  ヲ  $F_\beta \downarrow 0$  ナル  $\bar{X}$  ノ directed set  
 トスル.  $F_\beta \in \bar{X}_p$  ナル  $p$  が 存在スルトシテヨイ. コレカラ  
 $(\alpha)$  ノ 成立ガ スゲ判ル。

以上ノ 定理ヲ 例題ニヨツテ 説明スルニ,  $X$  ヲ Lebesgue  
 測度ニ關スル例 3 ノベクトル束トスルバ,  $\bar{X}$  ハ少クトモ  
 ノ正数  $\alpha =$  對シ 絶対値  $1$  ( $1 + \alpha$ ) 乗ガ 可積分トナル 函数ノ

(1) Banach 束デアハルムニヨル 収斂ト 相違ニ様  $(*)$  - 収斂トガ同  
 義ナルコトヲ 注意スレバ スゲ判ル。

全体が  $\mathbb{R}$  上のベクトル束である。  $\bar{X}$  の場合  $\mathbb{C}$  型正則  
 であり、<sup>(1)</sup> 然し  $X = \bar{X}$  としても、また  $X$  として  $(\Delta)$ -空間  
 としても、  $\bar{X}$  の  $\mathbb{C}$  型正則でありが  $X = \bar{X}$  としての性質を  
 持つ。

### §11. Bochner 束 / 有界線形作用素

本節では  $X$  を Bochner 束とする。  $X$  の正要素  $a = \text{dist}$ 、  
 主イデアル  $\mathcal{O}(a)$  を  $X_a$  と置く。 正数列  $\{\alpha_p\}$  を  $\sum \alpha_p F_p(a)$   
 $< +\infty$  となる様に、  $\phi(x) = \sum \alpha_p F_p(x)$  とおき、  $L_a = \{x;$   
 $\phi(|x|) < +\infty, x \in X_a\}$  とする。  $L_a$  の抽象  $L$ -空間  
 となる。

定理1. Bochner 束  $X$  が条件 (N) を満足すれば  
 束  $Y$  へ、線形作用素  $U = \text{ツイテ}$  次 / 命題と同義であ  
 る。

(1°)  $U(x)$  の正線形作用素、差として表わされる。

(Kantorovitch, 意味 / 正則, Birkhoff, 意味  
 / 有界)

(2°)  $U(x)$  の  $(0)$ -収斂列  $\rightarrow (0)$ -収斂列  $=$  移す。 (Kantorovitch, 意味  $U \in H^0$ , 以下  $\text{卑} = (0)$ -連続  $\rightarrow$ )

(1) これから可積分函数、かつ、如何なる  $\alpha > 0$  に対しても絶対値 /  
 $(1+\alpha)$  乗が可積分  $=$   $\text{ツイテ}$   $\in$  / が存在するコトが判る。 従って  $\alpha$   
 $\beta > 1$  とすれば絶対値 /  $\beta$  乗が可積分  $\text{ツイテ}$   $\in$ 、如何なる  $\alpha > 0$   
 $=$  対しても絶対値 /  $(\alpha+\beta)$  乗が可積分  $\text{ツイテ}$   $\in$  / 存在が  
 判る。

(3°)  $U(x)$  は  $(*)$ -収斂列  $\rightarrow$   $(*)$ -収斂列 = 移ス。

(Kantorowitch, 意味  $U \in H_c^E$ , 以下單 =  $(*)$ -連続トイフ)

(証) (1°) と (2°) の同義ハ Kantorowitch 定理カラ<sup>(1)</sup>。

(2°)  $\rightarrow$  (3°) ハ自明, (3°)  $\rightarrow$  (1°) ヲ示セバヨイ。  $a \in X$  任意

ノ正要素トシ,  $a$  ノ正要素ノ和,  $a = \sum_1^n x_i$  トシテ  $\sum_1^n |U(x_i)|$

ヲ作り,  $\epsilon > 0$  スベテ  $\sum_1^n |U(x_i)| < \epsilon$ ; 集合  $E$  トスル。  $E$  が

(0)-有界デアルコトヲ示セバヨイ。  $y_1, y_2 \in E$  ノトキ  $y_1, y_2 \leq y_3 \in E$  トル  $y_3$  が存在スル。<sup>(2)</sup>  $E$  が (0)-有界デタイトスレバ,

$y_n < y_{n+1}$ ,  $y_n \in E$  トル (0)-有界デタイ  $\{y_n\}$  が存在スル。

$L_a$  ガ  $Y$  へノ作用素トシテ  $U(x)$  ハ  $(*)$ -連続デアル,  $x \in L_a$  = 対シ  $\|x\| = \overline{\Phi}(|x|)$  ト置ク。

$\|U\|_p = \text{l.u.b.} (\|U(x)\|_p; \|x\| \leq 1, x \in L_a)$  トスレバ

$\|U\|_p < +\infty$ . マタ  $E \ni y = \sum_1^n |U(x_i)|$ , 対シ  $\|y\|_p \leq \|U\|_p (\sum_1^n \|x_i\|)$

$= \|U\|_p \|a\|$  ノタ  $\lim_{n \rightarrow \infty} \|y_n\|_p < +\infty$  トナリ,  $\forall y_n$  が存在スル

コトナリ, 矛盾が起ル。

定理2. Bochner 束  $X$  カラ  $Y$  へノ線形作用素 = ツイテ前定理が成立ツ。

(1) L. Kantorowitch, 49 (1940) 227頁, 定理5カラ。

(2) L. Kantorowitch. 同上, 231頁, 定理11ノ証明参照。本文ノ

定理ハコノ定理ヲ拡張シテ  $\infty$  = スキナリ。



定理3. Bochner 束カラ  $K$ -空間へ、線形作用素  
 ヲイテ定理1が成立ツ。

### §8. $F$ -束へノ計量的完備化

定理1.  $X$ ヲ-8/、(I) — (IV)ヲ満足スル単位  $\rho$ ヲモ  
 ヲ  $\rho$ -完全ベクトル束トスル。  $X$ ノ  $\rho(x) = 0$ ル完備化ハ  $K_0$   
 型"正則" Fréchet 束ニシテ、  $X$ ノ任意ノ区間ハ完備化ニヨ  
 ヲテ影響ヲ受ケナイ。

(註)  $X_1$ ヲ  $\rho = 0$ ル  $X$ ノ完備化トスル。  $X_1$ ハベクトル束  
 トシテハ自明。  $X_1 = \{x\}$ ニ於テ (IV) が成立スルコトヲ云ハ、 $\rho = 0$   
 也。  $\{x_n\}$ ヲ  $X$ ノ (0)-有界ノ基本列トスル。  $\{x_{i_n}\}$ ヲ  
 $\rho(x; -x_{i_n}) \leq \frac{1}{2^n}$ 、  $j > i_n$ トシテ  $i_1 < i_2 < \dots$ ト  
 シテ  $\exists$  也。

$$\bar{x}_n = \bigvee_{p \geq n} x_{i_p}, \quad \bar{x} = \bigwedge_n \bar{x}_n, \quad x_n = \bigwedge_{p \geq n} x_{i_p}, \quad x = \bigvee_n x_n$$

$$\text{区間 } x_{i_n} \vee x_{i_{n+1}} \vee \dots \vee x_{i_m} - x_{i_n} \wedge x_{i_{n+1}} \wedge \dots \wedge x_{i_m} \leq \sum_{n=1}^{m-1} \frac{1}{2^n}$$

$|x_{i_{p+1}} - x_{i_p}|$ カラ (IV)ヲ狭クテ  $\rho(\bar{x}_n - x_n) \leq \frac{1}{2^{n-1}}$ 、然ルニ  
 $\bar{x}_n \geq \bar{x} \geq x \geq x_n$ カラ  $\rho(\bar{x} - x) = 0$ 、即チ  $\bar{x} = x$ 、然ツテ  
 $\{x_{i_n}\}$ ハ  $\bar{x} = (0)$ -收歟スル、コレカラ  $\rho(x_n - \bar{x}) \rightarrow 0$ ト  
 ナル。

今  $z \in X$ 、 $\rho$ ノ任意ノ正要素トスル。  $\{x_n\}$ ヲ  $x_n \in X$ 、  
 $\rho(x_n - z) \rightarrow 0$ トスル。  $x_n \geq 0$ トシテ差支ヘナイ。  
 $|z \wedge p e - x_n \wedge p e| \leq |z - x_n|$ 、 $\rho(x_n \wedge p e - z \wedge p e) \rightarrow 0$ 。  
 故ニ  $z \wedge p e \in X$ 。コレカラ  $\rho(z \wedge p e - z) \rightarrow 0$  ( $p \rightarrow +\infty$ )ガ

知ラレド。今  $\{z_n\}$  が  $z_n \downarrow 0$  と  $X$  の要素列トシ、 $p$  が充  
 分大トツテ  $\rho(z_n - z_n \wedge p) \leq \varepsilon$  トラシムルバ  $z_n - z_n \wedge p$   
 $\leq z_n - z_n \wedge p$  かつ  $\rho(z_n - z_n \wedge p) \leq \varepsilon$ 。且  $n \rightarrow +\infty$   
 とき  $z_n \wedge p \downarrow 0$  と  $X$  中  $\rho(z_n \wedge p) \downarrow 0$ 。エカテ  
 $\rho(z_n) \downarrow 0$  が証明サレド。  $X$  が  $\sigma$ -完全ナルコトヲ証スル  
 バ §1. 補題 7 及ビ 定理 1 = ヲ用  $X$  は  $K_0$ -型 "正則"  
 $F$ -束ナル。

以下ノ証明。  $\{z_n\}$  が  $(0)$ -有界ナ  $X$  の正要素ノ列ト  
 スル。  $z_n \leq z_{n+1} \leq z$  ナル  $z \in X$  が存在トスル。  $p =$  對  
 シ  $x_p = \bigvee_n (z_n \wedge p)$  トオク  $x_p \in X$ 。  $p$  が充分大ト  
 リ  $\rho(z - z \wedge p) \leq \varepsilon$  トラシムルバ、  $q > p =$  對シ  $z - z \wedge p$   
 $\geq z \wedge q - z \wedge p \geq z_n \wedge q - z_n \wedge p$  かつ  $z - p \geq$   
 $x_q - x_p$ 。  $x = x_p$  へ  $p =$  用スル基本列ヲ作ル。  $\forall$  極限ヲ  
 $z_0$  トスルバ  $z_0 \leq \bigvee_n z_n$  ナルコトヲ容易ニ確メラレド。

定理 2.  $X$  中、 $\forall$  各要素  $x =$  ノルムが定義サレ

- (1)  $\|x\| \geq 0, x=0$  とき  $\|x\| = 0$
- (2)  $\|x+y\| \leq \|x\| + \|y\|, \|\alpha x\| = |\alpha| \|x\|$
- (3)  $|x| \leq |y|$  とき  $\|x\| \leq \|y\|$
- (4)  $x_n \downarrow 0$  とき  $\|x_n\| \rightarrow 0$

ヲ満足スル  $\sigma$ -完全ベクトル束トスルバ、  $X$  は完全ベクトル  
 束ニシテ  $X$  の任意ノ区間ハ列的弱コンパクト且弱ビコンパクト  
 ナル。

(証) 定理 1 カラ

(注意) 本定理ニ於テ  $X$  が単位ヲモツトキハ  $\forall$  完備化

ハ K-空間デアール。

条件 (N) を満足スルベクトル束ハ謂ハシ K-空間ノ拡張デアール。従ッテ K-空間ニ對シテスル擴張ガ考ヘラレル。コノ  $X = H$  ノ完全ベクトル束ニ於テ §6 / (i) - (iii) / 外ニ次ノ条件 (V) を要求スル。

(V)  $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n \leq \dots$ ,  $\lim_{n \rightarrow \infty} \lim_{m \rightarrow \infty} \|x_{n+m} - x_n\|_p = 0$   $p=1, 2, 3, \dots$  / トキ  $\forall x_n$  ガ存在スル。

斯クノ如ク §6 / (i), (ii), (iii) 及ビ (V) を満足スルノ完全ベクトル束ヲ条件 (N) を満足スルベクトル束ト呼ブ。計量函数  $\rho(x)$  が §6 = 於ケルト同様ニトルトキハ, コノベクトル束ハ  $\rho(x) = 0$  リ  $K_6$  型 "正則"  $F$ -束ニナル。 (V) を満足シトイトキハ,  $\|x\|_p = 0$ ,  $p=1, 2, 3, \dots$  ト  $x=0$  ガ同義ナルヲ単位ヲモツトキハ定理 1 = ヨリ,  $\rho(x) = 0$  完備化ヲ考ヘルト条件 (N) を満足スルベクトル束トナル。

定理 4. §6 / (i), (ii), (iii) 及ビ  $\|x\|_p = 0$ ,  $p=1, 2, 3, \dots$  ト  $x=0$  ノカ同義トナルノ完全ベクトル束 (従ッテ条件 (N) を満足スルベクトル束ヲ含ム) / 任意ノ区間ハ列的弱コンパクト且弱ビコンパクトデアール。

定理 5.  $X$  が条件 (N) を満足スルベクトル束トスル。 $\overline{X}$  が  $K_6$  型 "正則" / トキ  $X$  ハ K-空間デソノ共軌空間  $\overline{X}$  ハ K-空間デアール。

(証) §6, 定理 3 / 証明ニ準ズル。

§9. 環束ヲ作ル Bochner 束

補題1  $X$ が条件  $(N^-)$  を満足スルベクトル束トスル。 $X$ が廣義ノ列空間<sup>(1)</sup>トルタメノ条件ハ  $(*)$ 位相デ  $X$ ノ任意ノ区間ガコンパクトニナルコトデアール。

(証)  $\alpha_p$ ヲ  $\|x\|_p = 0$  トル  $x$  全体ノ作ル正規イデアールトシ,  $\alpha_p =$  直交スル要素ノ全体ヲ  $X_p$ トスル。 $X_p$ ハ  $\|x\|_p = 0$  ヲリ各区間ガコンパクトニナルカラ  $X_p$ ハ廣義ノ列空間ニナル。<sup>(2)</sup> コレカラ  $X$ ガ廣義ノ列空間ニナルコトガ証明出来ル。

補題2. Bochner 束ガ廣義ノ列空間ニナルタメノ条件ハ 任意ノ区間ガ  $(*)$ -位相デコンパクトニナルコトデアール。

(注意) 補題1及ヒ補題2ニ於テ空間ガ列空間ニナル条件ハ単位  $e$ ヲモチ区間  $(x; 0 \leq x \leq e)$ ガ  $(*)$ -位相デコンパクトニナルコトデアール。

定理1. Bochner 束ガ環束(積ノ結合則ハ假定スルニ及ビ<sup>(3)</sup>)ヲ作ルトキ, 列空間ニナル。

(1)  $e_\alpha \wedge e_\beta = 0, \alpha \neq \beta$  トル  $\{e_\alpha\}$ ガ存在シ, 任意ノ  $x$ ガ  $x = \sum \lambda_\alpha e_\alpha$  (可附番個ノ  $\lambda_\alpha, \sum 0 \neq +$ )ト書カレルコト。 $\{e_\alpha\}$ ガ可附番ノトキ單ニ列空間ト云フコトニスル。§3 定理2テハ廣義ノ列空間ヲ單ニ列空間ト呼ンダ。

(2) 小笠原藤次郎, 廣島文理大紀要, 11 (昭17), 127頁定理4, 証明参照。

(3) 紙媒誌 232号談話 1011 参照。

(証) 環素  $\mathcal{F}$  を Bochner 環  $X$  とし, 環素 / 単位  $\mathcal{F}$   $e$  とす。  $e$  を / とす様 =  $X$  を表現  $\mathcal{F}$ -ル空間  $\Omega$  上, 連続函数  $f$  を表現す。  $x \in X = \int_{\Omega} f_x(\xi) d\omega$  が成る  $\mathcal{F}$  とす。 ベクトル値測度函数  $\mu(E)$  を考へ,  $\xi \in \mathcal{F}, a \in e$  とし  $L_e$  及び  $\mathcal{F}(x)$  を考へル。  $\omega(E) = \mathcal{F}(\mu(E))$  とすれば  $\omega(E) = 0$  と  $E$  の第一種集合  $\mathcal{F}$  と同義 = する。  $\Omega$  上  $\omega =$  関して可積分函数 = 對等 + 連續函数 / 全体  $L_e$  / 表現函数 / 全体が一致する。

$F$  を任意 / 正線形汎函数  $\mathcal{F}$  とすれば,  $x \in L_e = \int_{\Omega} f_x(\xi) \varphi(\xi) d\omega$  なる有界連続函数  $\varphi(\xi) \geq 0$  が存在する。

任意 /  $y \in X = \int_{\Omega} f_y(\xi) \varphi(\xi) d\omega, x \in L_e$

とす。 (1)  $X$  を任意 / 正数  $\lambda$  とすとき,  $\Omega_{\lambda} = \{\xi; \varphi(\xi) > \lambda\}$

とすれば  $\int_{\Omega_{\lambda}} f_x(\xi) f_y(\xi) d\omega < +\infty$  かつ  $\Omega_{\lambda}$  上 / 任意 / 可積分函数

$f_x(\xi), f_y(\xi)$  が成立する。 従て  $\Omega_{\lambda}$  上對等 + 基本開集合  $\mathcal{F}$ 。

$\sigma^*(e_{\lambda})$  ( $e_{\lambda}$  は  $e$  上の閉する特性要素,  $\sigma^*(e_{\lambda})$  は  $\sigma(e_{\lambda}) =$

對應する  $\Omega$  / 集合) とすれば  $\sigma(e_{\lambda})$  は有限次元 = する。 換言

すれば  $e_{\lambda} =$  閉する特性要素の有限  $\mathcal{F}$ -ル代数  $\mathcal{F}_{\beta}$  を作る。  $\mathcal{F}_{\beta},$

$\beta = 1, 2, \dots$  を  $\mathcal{F}$  と考へルこと = 有り,  $e =$  閉する特性要素 /

素 /  $\mathcal{F}$ -ル代数が原子的 = なることが証明される。 これが  $\mathcal{F}$

(1)  $m(E) = \mathcal{F}(\mu(E))$  とすれば  $\mathcal{F}(xy) = \int_{\Omega} f_y(\xi) dm(E)$ , 然れば

$$m(E) = \int_{\Omega} f_x(\xi) \varphi(\xi) d\omega \text{ かつ } \mathcal{F}(xy) = \int_{\Omega} f_x(\xi) f_y(\xi) \varphi(\xi) d\omega$$

$X$  の列空間  $= +\infty$ .

定理 2. Bochner 束が  $(\Delta)$  空間  $= +\infty$  条件の  $\{F_p\}$  が  $F_p \wedge F_q = 0$   $p+q+\infty$  可附番無限集合  $=$  選バコトが出来且環束ヲ作ルコトデアル.

(証) §4, 定理 3 (36, 補題 1  $=$  於ケル訂正参照) ヲ使ツテ.

$X$  上 Bochner 束トシ,  $\forall$  表現ヲ考ヘテ見ル. 正規イテマシ, 完全ガール代数  $N$ , 表現ガール空間ヲ  $\mathcal{B}_N$  トシ,  $X$  カラ  $\{e^{(\alpha)}\}$  ヲ  $e^{(\alpha)} \wedge e^{(\beta)} = 0$ ,  $\alpha \neq \beta$  且ツスベテ,  $e^{(\alpha)} =$  對シ,  $x \wedge e^{(\alpha)} = 0$  / トキ  $x = 0$   $+\infty$  様  $=$  トル.  $X$  上  $e^{(\alpha)}$  が  $\mu^*(e^{(\alpha)})$ , 特性函数ト  $+\infty$  様  $= X$  上  $\mathcal{B}_N$  上, 連続函数ヲ表現スル. ベクトル値測度函数  $\mu(E)$  ヲ  $E$ , 特性函数ト對等ト連続函数ヲ表現函数トスル  $X$ , 要素が存在スルトキ, 之ニ等シイト置キ, 然ラザルトキハ  $+\infty$  ト置ク.  $m_p(E) = \int_p(\mu(E))$ , 但シ  $\mu(E) = +\infty$  / トキ  $m_p(E) = +\infty$  ト定ムル. コノトキ  $X$  上 表現函数, 全体ハスベテ,  $m_p$ ,  $p=1, 2, \dots$   $=$  同シ可積分函数, 全体 (對等ト函数ハ同一ト見ル) ト一致スルコトガ証明サレル.

従ツテ大ザツバ  $=$  云ツテ Bochner 束ハ抽象集合, Borel 族  $=$  定義サレタ高々可附番個! 測度  $=$  同シ可積分函数全体, ベクトル束ト看做スコトが出来ル.

§10. Banach 束  $=$  於ケル積  $=$  関スル一注意

$X$  上 単位  $e \in \mathcal{Y}$  Banach 束トスル. 正要素  $x, y$

積ヲ定義スルニ、 $x, y$  が夫々  $E = \text{閉シテ有界}$ 、トキハ  $E$  積  
 単位トスル積  $xy$  一意ニ定ムル方法ハ色々アルガ、要スル  
 = カ> レトキ  $xy$  が定義サレヌトスル。  $x, y$  が  $E = \text{閉シテ、必}$   
 $ズシテ有界}$  デトキハ  $\{(x \wedge ne) - (y \wedge ne)\}$  が  $(0)$ -有界  
 ノトキニ限り、ソノ上端トシテ  $xy$  が定義サレルノデアリ。  
 $x, y$  が正要素デトキ  $xy$  正  $x_+ y_+ - x_- y_+ - x_+ y_- + x_- y_-$   
 ト定義スルバヨイ。従ツテ  $\|x\| \|y\|$  が存在スレトキニ限り  $xy$   
 が定義サレルコトニナル。

定理1. Banach 束  $X =$  於テ  $x \in X$  が他ノスベテノ要  
 素トノ積が可能ナルタメノ條件ハ  $x$  が  $E = \text{閉シテ有界}$  トナル  
 コトデアリ。

(証) 充分ナルコトハ自明。

必要ナルコトノ証。  $x$  正要素トシテ一般性ヲ失ハナイ。

$xy$  ハ  $y$  ノノルムニ関スル連続函数ニナル。何者 Banach  
 束デハノルムニヨル収斂ト相異ニ様 (\*) - 収斂が同義ニナル  
 カラ、  $\|xy\| \leq C \|y\|$  ナル正数  $C$  が存在スル。

故ニ  $\|x^2 y\| \leq C \|xy\| \leq C^2 \|y\|$  カラ  $\|x^n\| \leq C^{n-1} \|x\|$  ガ云ヘル。

$x' = \frac{1}{C} x$  トオケト  $\|x'^n\| \leq \|x'\|$ 。今  $x'$  が  $x' \leq e$  ヲ満足シ

トキハ、 $X$  中  $e$  がノルムニ依リテ表現スルコトニヨリ、

$x'^n \leq na$ 、ナル  $a > 0$  ノ存在ガ容易ニ判ル。  $\|na\| \leq \|x'\|$

カラ  $a = 0$  トナケバ矛盾ガ起ルカラ、 $x' \leq e$  デナケレバナラ  
 ス。

本定理ハ §4 定理1ノ部分的拡張デアリ。尚 §4ノコノ  
 定理ノ証明ニ Dunfordノ定理或ハ Gelfandノ方法ヲ使

フコトヲ述ベテが使ハナイデモ簡單ニイヘル。  $x$  が  $x$  ト  $y$   
ノ函数ト考ヘテ連続ナル (ノルムニヨル収斂ト相對ニ様  
由ニ収斂ノ同義カラ)

故ニ  $\|xy\| \leq C \|x\| \|y\|$  ナル正数  $C$  が存在スル。  $\|x\|_0 =$   
 $L.u. \text{ of } (\|xy\|; \|y\| \leq 1)$  ト定義スレバ  $\|e\|_0 = 1, \|xy\|_0$   
 $\leq \|x\|_0 \|y\|_0, \frac{1}{\|e\|} \|x\| \leq \|x\|_0 \leq C \|x\|$  トナルカラ,  $\|x\|_0 =$  ヨ  
 リ同義 + Banach 束が得ラレル。尚同証明ニ於テ  $\|x\| \leq \|x\|,$   
 トシタカソノスガ上ニ述ベキコトカラ  $\|x\| \geq \|x\|,$  従ツテ  
 $\|x\| = \|x\|,$  ト改メル。